

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立刀根山高等学校
校長名	無津呂 弘之

開催日時	令和 6 年 11 月 25 日（月）15 時 30 分から 16 時 30 分
開催場所	本校会議室
出席者（委員）	岩槻会長、藤原副会長、山岸委員、後藤委員
出席者（学校）	無津呂校長、粉生教頭、松葉事務長、道場首席
傍聴者	なし
協議資料	令和 6 年度の各分掌の取組み、 令和 6 年度学校教育自己診断の結果（概要）
備考	

議題等
○令和 6 年度の各分掌の取組みについて ○令和 6 年度学校教育自己診断の結果について
協議内容（意見の概要）
・ TONE 究 Day について、今年で 3 年目に実施となり、3 年生は 1 年生のころから先輩のプレゼンを見ているため、良いプレゼンであったと思う。大学生・社会人になっても生きるスキルと思うので、今後もぜひ続けてほしい。また、防災に関する発表があって、高校のときからそのような意識があることがありがたいと感じた。 ・ 校則について納得できるという生徒が増加していることについては、特段、新しい取り組みをしているわけではないが、刀根山サミットで生徒会からの制服の要望について教員から 1 つ 1 つ丁寧説明されていたので、納得感のある指導をされているためではないかと感じた。 ・ 部活動に関する肯定率が下がっている要因は、中学校でもコロナ禍でこれまでに体験活動の場が減少や部活動の地域移行の影響があり、部活動に対する意識が低下しているため、高校でも同じようなことが起きていると考えられる。 ・ ホームページの肯定率について、生徒と保護者で大きく離れている。今年度より PTA の広報ブログを始めて、生徒からは見ているとの声を聞くが、生徒は SNS の方がよいと感じる。 ・ 教員について、日々の業務に関する連携は肯定率が上がっているのに、気軽に相談しあえる職場の人間関係については肯定率が下がっている。日々の業務については、教員同士で綿密に話をしているが、今後の学校の在り方について話すことが減っている。お互いに話をすれば理解しあえると考えられるので、そのような場を意図的に作る必要がある。 ・ 刀根山サミットについては、生徒たちが自分自身の行動で学校が変わる経験をするすることで、社会に出たときに主体的に社会に参画することにつながるので、とても良い経験になると感じる。 ・ 地域での活動について、高校生が地域と関わることは公民館としてもありがたいと感じている。今後も win-win な関係を築いていきたい。